

広島県フロラ覚書(1)

ニシキミゾホオズキ (新帰化植物)*

井上尚子¹⁾・磯部 実¹⁾・関 太郎²⁾

Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (1)

A new naturalized record of *Mimulus luteus* L.*

Naoko Inoue¹⁾, Minoru Isobe¹⁾ and Tarow Seki²⁾

はじめに

1997年(平成9年)8月22日の中国新聞(夕刊)に「広島県芸北町オオバミゾホオズキ群生 浜田の水元さん西日本で初めて発見」という見出しで次のような記事とともにカラー写真も掲載された。「広島県山県郡芸北町の山中で、本州中部以北にしか分布しないオオバミゾホオズキの群落が見つかった。西日本で発見されたのは初めて。浜田市清水町、調理師水元満夫さん(48)が、趣味の山野草の写真撮

影をしていて偶然、見つけた。広島大学総合科学部の中越信和助教授(45)＝群集生態学＝に標本を判定してもらったところ、茎の出方、鋸歯、ガクの形、花の長さはオオバミゾホオズキの特徴を持っていた。しかし、ミゾホオズキの特徴である葉柄があり、葉の形は両者の中間の特徴をしていることが分かった。(以下略)。

当時、関は『広島県の植物誌』(1997)の編集中心であったが、新聞の写真を見て、それは日本産の植物ではなく帰化植物であろうと推察した。しかし生

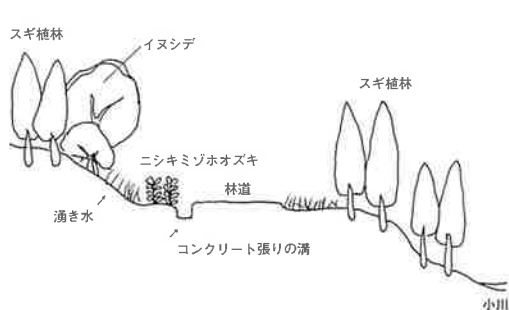


図1 ニシキミゾホオズキ生育地周辺の様子(その1)

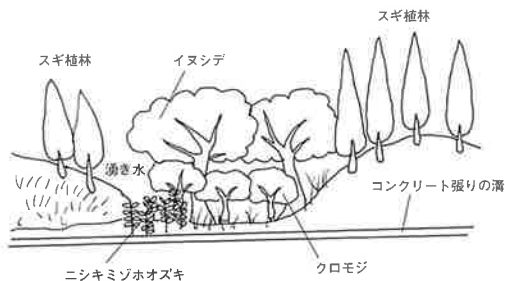


図2 ニシキミゾホオズキ生育地周辺の様子(その2)

*Contribution from The Hiroshima Botanical garden No.72.

1) The Hiroshima Botanical Garden.

2) Professor Emeritus of Hiroshima University.

Bulletin of The Hiroshima Botanical Garden, No.20: 49-52, 2001.

表 広島県山県郡荒神原 (A地点) におけるニシキミゾホオズキ生育地の植生

海拔: 745m.

斜面方位: S35° E.

調査日: 2000年6月19日

調査面積: 3×10m. 傾斜: 30°.

調査者: 井上尚子・磯部実・関太郎

階層	植物高(m)	植被率(%)	胸高直径(m)	優占種	出現種数
I. 高木層	~8	20	10	イヌシデ	1
II. 亜高木層	~4	40	5	クロモジ	3
III. 低木層	~1.5	80	2	コナラ	15
IV. 草本層	~1	100	—	ハガワリトボシガラ・ススキ	24
V. コケ層	~0.01	25	—	ムラサキミズゼニコケ	2

ニシキミゾホオズキの植物高は0.8~1 m

I. イヌシデ	2.2*	III. ミヤマイボタ	+	IV. ヒカゲノカズラ	+2
II. クロモジ	1.1	(続き)スギ	+	(続き)コアジサイ (芽生え)	+2
イタヤカエデ	1.1	ヒカサキ	+	シシガシラ	+
エゴノキ	1.1	コマユミ	+	ナガバモミジイチゴ	+
III. コナラ	1.2	IV. ススキ	3.3	サルトリイバラ	+
ミヤマガマズミ	1.2	ハガワリトボシガラ	3.3	ノササゲ	+
コアジサイ	1.2	イヌトクガワザサ	2.3	ヒヨドリバナ	+
フジ	1.2	ニシキミゾホオズキ	2.3	コシアブラ (芽生え)	+
リョウブ	1.2	ワラビ	2.2	スギ (芽生え)	+
オトコヨウゾメ	1.1	ヤマブキショウマ	1.2	ヒノキ	+
アサガラ	1.1	シロヨメナ	1.2	ヤマハギ	+
ヌルデ	1.1	ヨシノアザミ	+2	タチドコロ	+
クリ	1.1	オオバナニガナ	+2	V. ムラサキミズゼニコケ	2.2
ヤマウルシ	1.1	ホドイモ	+2	タニゴケ	+2

*最初の数字は総合優占度、2番目は群度を示す。

調査区域外にチダケサシ、オトギリソウ、アカバナ、サワオトギリ、ヤマアゼスケ、オカトラノオ、アブラガヤ、ツボスミレ、ヘクソカズラ、フキなどが見られた。

育の現地を確認する機会がなく、『広島県植物誌』には掲載しないままになった。

昨年、中越教授の紹介で水元氏と連絡がつき、現地を案内していただけることになった。2000年6月19日に、水元氏とともに井上、磯部、関が現地を訪れ植生調査を行い、生品をゴマノハグサ科の専門家である山崎敬博士に送付して、同定をお願いした。その結果、これがニシキミゾホオズキ *Mimulus luteus* L. (ゴマノハグサ科) であることが分かったので、報告する。

生育地の状況

ニシキミゾホオズキは、広島県山県郡芸北町荒神原の林道のり面で、東斜面の湧き水が流れている場所に生えていた。うち1ヶ所 (A地点とする。図1、2) では、周辺にアカバナやオトギリソウなど由来

の湿生植物、道路のり面の緑化に用いられるハガワリトボシガラなどがみられた。他の1ヶ所 (B地点) では、道路のり面に吹きつけられたハガワリトボシガラの群生の中、湧き水が出る所にニシキミゾホオズキが割り込むように生えていた。この地域は、広島県内では有数の多雪地帯であり、しばしば1 m以上の積雪に覆われる。ニシキミゾホオズキ生育地の植生概況を表に示す。

ニシキミゾホオズキ *Mimulus luteus* L. (ゴマノハグサ科) について

ニシキミゾホオズキは、欧米諸国を中心として近縁の仲間ともども園芸植物として普及し、日本でも、一部で栽培されている (武田・塚本 1994)、チリ原産 (Bailey et al. 1976, Phillip and Rix 1991, Huxley et al. 1997) の植物である。記載では花冠の黄色の

地色に赤色の斑点模様が目立つとあるが、芸北町で確認されたものは花冠喉部の小斑点が数ミリの大きさで、目立たないタイプであった。

今回調査した自生状況から判断すると、海外から輸入され林道ののり面の緑化用に使用されたハガワリトボシガラの子にニシキミゾホオズキの種子が混入していた可能性が高い。おそらく、これが冷たい山水が常時流れている所で発芽し定着したと思われる。

日本では1983年に石川県で帰化が報告されている(小牧 1983)。山崎博士(私信)によれば、その後も1986年に宮城県、1991年に岡山県で野生状態のものが見つかり、日本への帰化がほぼ定着していると思われるという。水元氏によると、ニシキミゾホオズキが広島県山県郡芸北町ではじめて確認されたのは1990年頃であり、それ以降2000年現在まで毎年開花している。広島県におけるニシキミゾホオズキの帰化は小規模ながらもほぼ定着したと思われる。

謝 辞

ニシキミゾホオズキの発見者であり貴重な情報をご提供頂いた水元満夫氏、その水元氏を紹介して下さい下さった広島大学総合科学部中越信和教授、同定をして下さった山崎敬博士に厚く御礼申し上げます。

証拠標本：1：50,000図幅「木都賀」。広島県山県郡芸北町荒神原、海拔780m、林道のり面、June 19, 2000, Coll. N. Inoue, M. Isobe & T. Seki. HBG12218, det. Takashi Yamazaki, June, 2000.

摘 要

1990年に広島県山県郡芸北町において発見された

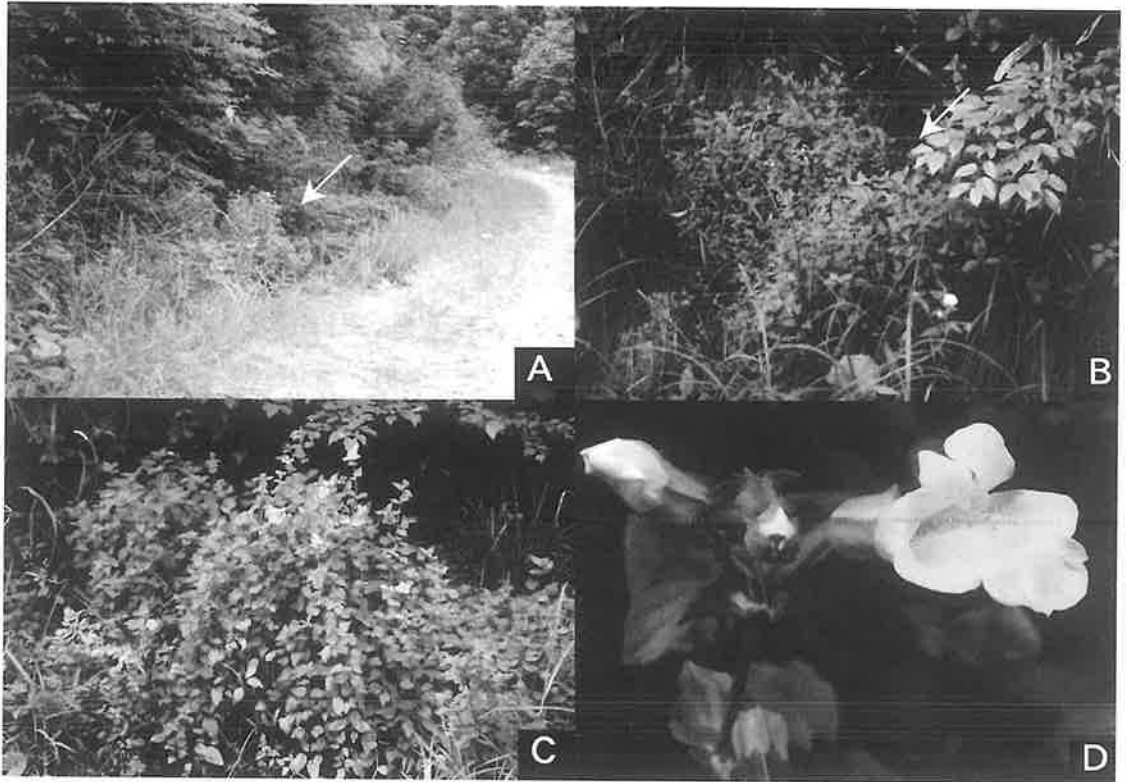
*Mimulus*属の植物が、チリ原産の*Mimulus luteus* L. (ゴマノハグサ科)であることが確認された。広島県では初めての記録となる帰化植物である。

Summary

Mimulus luteus L.(Scrophulariaceae) was newly found as a naturalized plant in Geihoku-cho, Hiroshima Prefecture. Since 1990 this species is growing in a wet slope along the forestry road.

引用文献

- Baliley, H.B., H. Bailey, D.M. Bates 1976. Hortus Third: A Concise Dictionary of Plants Cultivated in the United States and Canada. 1312pp., Hungry Minds Inc., New York.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832pp., 中国新聞社, 広島市.
- Huxley, A., M. Griffiths, M. Levy (Editor) 1997. The New Royal Horticultural Society Dictionary of Gardening 3. L to Q. 790pp., The Stockton Press, New York.
- Phillips, R., M. Rix 1991. The Random House Book of Late Perennials Volume 2. 252pp., Random House, Inc., New York.
- 小牧 旻 1983. 新帰化植物(ニシキミゾホオズキ) 北陸の植物 31:110
- 武田和夫・塚本洋太郎 1989. ミムルス〔属〕 *Mimulus* L.. 園芸植物大事典 4:557-559. 小学館, 東京.



図版. A: A地点の様子。B: B地点の様子。C: ニシキミゾホウズキ *Mimulus luteus* L. の草姿。D: ニシキミゾホウズキの花序。

A, Bで矢印で示したのが当該植物。